

平成19年8月18日実施の第2回リバースクールにおける採集結果

日本各地で記録更新している異常な猛暑が続くなか第2回目のリバースクールが多々良川の下流部で多々良および粕屋地区の約30人の小学生と20数人の父兄らで実施されました。場所は河口から約5km上流にある向河原橋下約100mの範囲です。ここは水深80cm程度のよどんだ淵と30cm以下の流れのある瀬が適度にあり、川底は小石、泥、砂などからなっていて、水中の流れの弱い所にオオカナダモやフサモ、流れのある所にエビモが、水際にはツルヨシが生えるなど生き物が生活するうえ色々な環境があり適したところでした。ここでたも網のほか叉手（さで）網と投網を用いて1時間がんばって採集しました。そのうち水槽に収容したものの数や大きさの結果が下の表です。13種類の魚類と3種類のエビ・カニ類が捕れました。このうち魚ではオイカワとゲンゴロウブナが多く、またミナミヌマエビやスジエビもたくさんいました。オイカワは淵や瀬に、ゲンゴロウブナは淵に、エビ類は水草の中におもに住んでいました。オイカワはちょうど産卵期間で雄の顎はざらざらし体色はきれいに变身していました。そして浅い水たまりに今年生まれの1cmほどの仔魚が数十尾群れていました。ゲンゴロウブナは釣りの対象のためよその地域から移植され、ここで増えたものです。捕れたもののほとんどが淡水魚で一生を過ごしますが、黄色で示した種類は海と川や池を行き来するものです。今回、数は少ないですが日本各地で絶滅が心配されている種類も捕れました。それはタナゴ類のセボシタビラやカネヒラやメダカです。しかし、もともとは多々良川に6種類のタナゴ類がたくさん生息していましたが今は減っています。さらに特定外来種で駆除の対象となっているオオクチバスが比較的たくさんいて心配されますが、私たちは今からも貴重な生物が将来も生息できるよう努力しましょう。



ギンブナ



ゲンゴロウブナ



オイカワ



セボシタビラ



カネヒラ



カマツカ



イトモロコ



モツゴ



ムギツク



メダカ



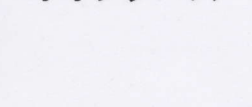
オオクチバス



トウヨシノボリ



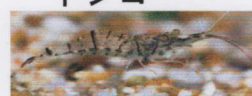
ドンコ



ミナミヌマエビ



モクズガニ



スジエビ

	全長(mm)	尾数
ギンブナ	48,50	2
ゲンゴロウブナ	32~225	21
オイカワ	20~134	50
セボシタナゴ	67	1
カネヒラ	61,69	2
カマツカ	44,70	8
イトモロコ	49	1
モツゴ	29~66	7
ムギツク	49~60	3
メダカ	29~31	4
オオクチバス	113~167	9
トウヨシノボリ	30~48	7
ドンコ	29	1
魚合計		116
スジエビ		30
ミナミヌマエビ		90
モクズガニ	甲長28	1

回遊魚

註：ゲンゴロウブナ20尾、オイカワ40尾未測定放流